

富山縣護國神社の文章は、「**歴史的仮名遣ひ**」を使用してをります。

ケイチニウ

僧・契沖を始め多くの國学者等が永い年月をかけて積み上げ、森鷗外・芥川龍之介・

よしお

山田孝雄博士（富山市名誉市民）等の努力によつて、日本語標記の基準とされてきた仮名遣ひを、敗戦といふ混乱期に「現代仮名遣い」に変へられてしまひました。

どこの國でも文化の核は、その民族が育ててきた**《言葉》**を中心にしてゐます。日本語の伝統を守る心は、日本の美風を守る心につながるのであります。

戦後、GHQの占領政策などにより、ほとんど検討しないままに、文法的にも欠陥の多い「現代仮名遣い」に変へてしまつたことは、**《國語の破壊》**を示すものであり、とても悲しむことであります。

昭和二十年以前の文学作品を「古典」としないためにも、「**歴史的仮名遣ひ**」を使用いたしませう。